

国 語 (前期日程・100 点)

2 月 25 日(火) 13:30~15:00 (90 分)

注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子および別の答案冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は 11 ページあります。別に答案冊子(答案用紙 2 枚)があります。
- 3 試験中に問題冊子および答案冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、汚れ等に気付いた場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 監督者の指示に従って、2 枚の答案用紙のそれぞれの所定の欄に氏名(1 箇所)と受験番号(2 箇所)を記入してください。
- 5 解答は答案用紙の所定の欄に記入してください。所定の欄以外に書いた解答は無効です。
- 6 答案用紙の縦線より右の部分には、氏名と受験番号のほかは記入してはいけません。下寄りに引かれた横線より下の部分には、なにも書いてはいけません。
- 7 問題冊子の余白は下書き用として使ってもかまいません。
- 8 試験終了時刻まで退室してはいけません。
- 9 試験終了後は、答案用紙 2 枚だけを監督者の指示に従って提出してください。
- 10 答案用紙以外は、すべて持ち帰ってください。

国語 (第1問・第2問)

第1問 次の文章ならびに解説一・二を読んで、後の問1～問8に答えよ。なお、解答に字数指定のある場合は、句読点なども含むものとする。

(配点 55点)

著作権の関係により掲載できません。

著作権の関係により掲載できません。

著作権の関係により掲載できません。

解説一 天地自然の理

古代中国の「天」観念に基づく考え方。「天」は人を生み出したと同時に、その秩序を維持するために君主や役人の存在をも生み出した。それゆえ、統治者は「天」という超越的存在によってその権限を保証される。「天地自然の理」とはこのような、人間同士の作為を超えておのずから存在するさまざまな理法のことを指す。

解説二 「民の父母」の慈愛

同じく古代中国の観念に基づく考え方。儒家の經典に、「天子は民の父母と作り、以て天下の王と為る」(『尚書(書経)』洪範)とあるように、「天」が生みだした君臣関係は親子関係にたとえられる。それゆえ、君主およびその手足たる役人は、子に対する親の「慈愛」のごとき心で民衆に臨むべきとされる。

問1 二重傍線部 a ~ h について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

問2 古代中国の「天地自然の理」という考え方によれば、「公」とはどういう存在とみなされるか。解説を参考にしながら、本文中の表現を十五字程度で抜き出して答えよ。

問3 以下は、傍線部①「帝舜にまつわる『孟子』の話」の漢文である。これを読んで、次の(1)・(2)に答えよ。

(五帝の一人に数えられる舜は古代の聖人として名高いが、帝位に就く以前は父からひどい仕打ちを受けていた。その父が人を殺したとすれば、帝たる舜はどう対処するだろうか、という門人からの質問に、孟子は以下のように答えた。)

舜^ノ視^ル棄^{ツル}天^ヲ下^ヲ、猶^モ棄^ヘ敝^シ蹤^シ也^ヲ、窃^ヒ負^ヒ而^テ逃^ゲ、遵^シ海^ニ浜^ニ而^テ処^リ、終^ニ身^ヲ訢^{キン}

然^{トシテ}、樂^{シミテ}而^テ忘^ル天^ヲ下^ヲ。

(『孟子』尽心上)

* 敝蹤 …… 破れた草履。

* 訢然 …… うれしいさま。

(1) 漢文中の波線部を書き下し文にせよ。

(2) 漢文の内容を踏まえ、本文中の空欄 に入る適切な内容を、「舜」「父」という言葉を用いて二十字以内で答えよ。

問4 傍線部②「公」と「私」はともに「天地自然の理」である」について、ここである「公」と「私」を具体的に言い換えた言葉を、それぞれ四字で抜き出して答えよ。

問5 傍線部③「公」と「私」はその存在の基礎を異なる土俵に置くことになり、その間の調整が難しくなってしまうについて、調整が難しくなったことで生じる弊害を、本文中の言葉を用いて三十字以内で答えよ。

問6 傍線部④「お釈迦さまの手のひらの上の孫悟空のようなもの」とあるが、ここではどういう意味か。以下の文がその説明となるよう、空欄

I

II

に入る適切な語句(

II

は二字熟語)を自分の言葉で答えよ。

実際には

I

のに、「私」が自由な状態にあると

II

してしまう。

問7 波線部「民が民として生き抜いていくための論理と決意とを、民自身が持たねばならない」について、今ならそのためにどうあるべきだと筆者は言うのか。その主張を端的に示す表現を、本文中から二十字程度で抜き出せ。

問8 次のア～エについて、本文の内容に一致する場合は「○」、一致しない場合は「×」でそれぞれ答えよ。

ア 古代中国の「公」は庶民の合意による存在ではないのだが、庶民は「公」を貴く名譽ある立場とみなした。

イ 「私」に強く介入してくる現代の「公」には問題が多く、かつての中国のような形に戻る方がよい。

ウ 現代の「公」の権威は民衆の合意に基づくものであるがゆえに、民衆の上に立つ存在として無条件に認められる。

エ 古代中国の「公」は、強い力で民を支配する一方で、「私」の上に立つにふさわしい自覚が求められた。

第2問

次の小説は川端康成『掌の小説』の中の一編「足袋^{たび}」である。これを読んで、後の問1～問6に答えよ。なお、解答に字数指定のある場合は、句読点なども含むものとする。

(配点 45点)

著作権の関係により掲載できません。

著作権の関係により掲載できません。

著作権の関係により掲載できません。

(川端康成「足袋」による)

問 1 傍線部①「どうしてあのような死にざまを見たのか」について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) どのような「死にざま」だったと「私」は考えているか、簡潔に答えよ。

(2) この「死にざま」に対応するもう一つの「死にざま」が本文中に描かれている。該当する箇所最初と最後の五字を抜き出せ。

問 2 傍線部②「そういう時私は白足袋を思い出すことにしている。」とあるが、「私」があえて「白足袋」を思い出すとするのはなぜか。傍線部の前後を踏まえてその理由を説明せよ。

問 3 本文中▼▲の範囲では、文と文との間に、作中人物達の具体的な言動が大きく省略されている箇所がある。その箇所を
1 8 から二つ選び、番号で答えよ。また、そこで省略された言動はそれぞれのどのようなものか、自分の言葉で簡潔に
答えよ。

問 4 傍線部③「姉と私がはつきり別の人だと、この時はじめて感じたようだった。」とあるように、それ以前の「私」にとって「姉」は「別の人」ではなかった。そのことを象徴的に示す事実をこの手前から見つけ、十五字程度にまとめよ。

問 5 傍線部④「家の人は先生の死を私にかくしていたらしい。」とあるが、それはなぜか。理由を簡潔に説明せよ。

問6 傍線部⑤「赤いシルク・ハットと白い足袋とは、なんであつたろうかと、生きている私は考える。」について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) 「私」に、「生きている」という表現が付せられているのはなぜか。「私」の内面に即してその理由を二十字程度で説明せよ。

(2) 「赤いシルク・ハットと白い足袋とは、なんであつたろうか」と「私」は自問しているが、その自問の内容の説明として適切なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア これら二つを供えた相手の双方に「私」は深く関わったが、一方との関係は途中で絶たれ、他方とは感情の行き交いが最後まで持続されており、その関係のありかたの対照性を赤白という色のコントラストが暗示するのではないかと考えている。

イ どのような思いを託してこれらを相手にそれぞれ供えたかは、今となつては「私」自身にも判然とせず、ましてや相手の受けとめ方は知るすべもなく、目に見える具体的な事物を通して自他の内面を知ることとはできないのではないかと考えている。

ウ 「私」の知らない間に一方を供えてくれた肉親に引き続き、自分もまたもう一つのことを供える、という連鎖がこれらの存在からは感じ取れ、どのような終わりを迎えるにせよ人が人を見送ることでは命はつながっていくのではないかと考えている。

エ 別の世界に旅立った人達に供えられたこれらは、二つの異質な世界を結びつける手がかりのようだが、同時に彼らの死にゆく姿とそれらとのギャップが「私」に謎を残し、実は世界の隔たりを感じさせるものでもあったのではないかと考えている。

オ あちらの世界に行ってしまった人達に対してどれほど大事なものを供えたところで、自分の相手への思いが通じるはずもないが、それがあの時の未熟な「私」にできた精いっぱいのものであり、しかたなかったのではないかと考えている。